がんばろう福島

〒960-8068 福島市太田町13-17 民報ビル1F
☎024（533）7011
FAX024（533）2117
（広告のお申し込み、お問い合わせは）
☎03（3820）0691
情報をお寄せください　メールアドレス：sn-fukushima@sponichi.co.jp

第59回県高体サッカー最終日
（1日　福島市・十六沼公園サッカー場）

途中出場の田鹿決着ゴール

尚志 延長粘勝 4連覇

＜尚志・富岡＞4年連続優勝に歓喜の尚志イレブン（写真上）決勝点を挙げた田鹿

決勝戦が行われ、尚志が富岡を延長戦の末に1－0で下し、4年連続6回目の優勝を決めた。0－0の延長前半1分に、後半28分から出場したFW田鹿宣夢（3年）が決勝ゴールを決め全国切符を引き寄せた。尚志は県代表としてインターハイ（サッカー＝7月31日開幕、福岡）に、今大会の2位までが東北大会（14日開幕、秋田）に出場する。また、女子決勝では富岡が磐城桜が丘を3－2で破り、2年ぶり7回目の頂点に立った。

▽男子決勝

尚志	1	0－0 0－0 1延0 0長0	0	富岡

▽得点者＝【尚】田鹿

0－0で突入した延長前半1分だった。中央から左に出されたパスに左サイドを縦に走り込んだFW田鹿が左足でシュート。ボールは右ポストに当たってそのままゴールの中へ。これが決勝点となった。田鹿は「チームのために決めることができて、本当にうれしかったです」と声を弾ませた。この日は後半28分から途中出場。今大会は準々決勝から出場し、3試合全てでベンチスタートながら4得点を挙げているゴールハンターだ。

田鹿と交替したMF篠崎幸樹（3年）は中に切れ込むタイプだが、田鹿は縦の突破に強い。仲村浩二監督（40）は「違うタイプを入れ替えたら相手も少し戸惑うと思い直感で代えた。田鹿がやってくれた！」と笑顔で話した。

指揮官は田鹿を「ブラジル人みたいなドリブルを見せる。ロナウジーニョがよく見せる〝エラシコ〟が得意で、お金を出してJリーグを観戦するより田鹿のアイデアのあるドリブルを見ているほうが面白い」と高く評価している。〝エラシコ〟とは、足の動きとは逆方向にボールをはじくフェイントで、高い技術が必要なプレーの一つと言われている。

そのたぐいまれな技術は、中学時代のブラジルへのサッカー留学で磨いたもの。ドリブルも本場仕込みだが、もちろん人一倍の努力で培ったものだ。身長1㍍63でチーム内では小柄だが、朝練や全体練習後の自主練は欠かさない。指揮官は「自分の特長であるドリブルを磨くため、ひたすら練習している」とそのひたむきさに目を細めた。

東京都出身だが、中学時代に全国高校選手権で尚志のサッカーを観戦したことがきっかけで、11年の東日本大震災直後に尚志に入学。「家族から心配されたけど福島に来て良かったです。もっとそう思えるよう、目標の全国制覇に向かって頑張ります」と表情を引き締めた。インターハイでの最高成績は11年の8強。それ以上の成績を目指し小柄なゴールハンターが暴れまくる。

（佐久間　尚子）

〇その他の試合〇
【男子】▽3位決定戦
福島工 1－1（PK8－7）聖光学院

8人で奪冠

▽女子決勝

富岡	3	2－0 1－2	2	磐城桜が丘

▽得点者＝【富】今野、高野2【磐】吉田、中島

＜富岡・磐城桜が丘＞2年ぶりの優勝の女子・富岡イレブン

＜女子富岡＞部員9人なのにFW二ノ宮千穂（1年）が左アキレス腱のケガで欠場したため8人で参戦したが2年ぶり7回目の優勝を決めた。昨年は震災の影響による部員不足で大会に出場できず。松本克典監督（37）は「一人一人が運動量を上げ、求められるプレーも厳しかったと思うが頑張ってくれた」と感無量の面持ちで話した。ただ、インターハイに出場するには、東北大会（15日開幕、秋田）で上位2校に入らなくてはならない。この日、2得点のMF高野零（2年）は「全国に行けるよう頑張ります」と気合を入れ直した。

◇県高体サッカー結果◇

チーム	スコア
相馬東	0－2
郡山	1－0
安達	9－0
尚志	9－0
会津学鳳	6－0
会津	3－2
平工	2－1
安積	6－0
湯本	4－1
福島工	1－0
聖光学院	2－0
会津工	2－0
須賀川	1－0
郡山商	2－0
磐城	1－0
学法石川	2－0
福島東	2－0
帝京安積	1－0
富岡	2－0
相馬東	

尚志4年連続6回目優勝